あとがき

中嶋龍三さんの姿をもう見ることは出来ません。

前号64号は，本誌の前身であるJNDCニュースから数えて100号目になりました。JNDC ニュースの創刊にも，核データニュースの刊行にもかかわった中嶋さんに，100号記念の文章を書いていただきました。それが最後になってしまいました。刊行頻度を年三回，大相撲の東京場所に合わせて出そうや，といったのは中嶋さんです。そのペースは今も変わりません。

中嶋さんの最後になった原稿で，筆者は評価というものに対するK. Wayの考えを——中嶋さんはWayのところで研究をされたはずだから——もう一度振り返ってもらい，そして中嶋さんの評価に対する思いを書いてもらう積りだったのです。しかし，中嶋さんは最近「外国人」が考えていることを忖度できなくなった，といってお断りになりました。そして「船頭が多くても，よいではないか」というような一文を頂いたのです。

お棺の中で，白い菊の間からのぞいていた中嶋さんの顔は，苦しかった闘病生活を物語っているのか，あの元気に酒盃を傾けていた顔が思い出されないほどの，まるで別人のそれでありました。

原子力学会に核データ部会が作られました。いろいろな意見を発表できる場として，本誌の役割も一層大切なものになってくるでしょう。大相撲には次々と若者が現れ，挑戦しています。胸を貸し，挑戦を跳ね返すベテランの存在も必要なのです。核データの分野も負けずに頑張りたいものです。

喜多尾　憲助
KitaoKen@aol.com

核データニュース編集委員会

中川　庸雄（委員長、原研）、井頭　政之（東工大）、岩本　修（原研）、喜多尾憲助（データ工）、長谷川　明（原研）、吉田　正（武蔵工大）